

## そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院

初期研修医 庄司夢

12月から1ヶ月間、そよかぜ診療所で地域研修をさせて頂きました。寒さも厳しくなり雪を覚悟して伺いましたが、積もることはなく大変過ごしやすい研修となりました。神戸では味わうことのできない、ゆったりとした雰囲気、トロツとした湯質の温泉、徒歩圏内に2ヶ所ある酒造場、澄みきった夜空、閑散とした最寄りの無人駅…1ヶ月の間、診療だけでなく様々な体験をさせて頂き、とても充実した研修となりました。研修の内容としては、診療所では主に採血・レントゲン・頸部と心エコーをさせて頂き、昼間は訪問診療をさせて頂きました。

研修する中で、普段いかに他人任せであったことを痛感させられました。地域では病院が少ない上に、多くの併存疾患を患った高齢者の方がたくさんいらっしゃり、先生方は内科から外科領域まで多分野に渡って患者さんを診られていました。現在、特に研修病院では診療科が細分化されており、他分野であればコンサルトをして任せていることが多くあります。もちろん、入院患者ということで緊急性が異なり必要な場面もあるとは思いますが、自分の知識や能力があれば不必要なコンサルトが多くあると痛感しました。その一つとしてエコーなどの手技や、高齢者に多い疾患を診させて頂いたことは大変大きな経験となりました。

訪問診療では通院できない高齢者、寝たきりの方、施設の方などを診させて頂きました。自宅に伺っただけで喜んでくださる方、聴診器をあてるだけで安心される方、名前を覚えてくださっている方など、大変心温まる経験をさせて頂きました。いかに訪問診療を頼りにしてくださっているのかを実感しました。また今回初めて自宅でのお看取り、エンゼルケアにも参加させていただく機会がありました。病院とは異なり、ご自身のベットで家族に見守られた中でのお看取りは、心なしか患者さん、ご家族の表情がとても明るく見えました。今までお世話になりました、ありがとうねと、旦那さんの顔を拭いている姿にはとても感動しました。その他、介護で大変な中、今日はご飯を食べられて大きな声で叫ぶんです。と嬉しそうに語られ、お父さんと出会えてよかった。と語る、夫婦愛にも立ち会うことができました。改めて、訪問診療、在宅での療養について深く考える貴重な機会となりました。

最後になりましたが、不自由のない生活環境を整えてくださり、熱心に指導して頂いた秀樹先生、静子先生、黒瀬先生、本当にありがとうございました。また、日々の診療を支えて下さり、暖かく迎え入れて下さった優しいスタッフの皆様、毎日美味しい昼食を作ってくださった岡本家の皆様、本当にありがとうございました。忘れられない貴重な体験になりました。またどこかでお会いできることを楽しみに、先生方のような立派な医師になれるよう精進していきたいと思っております。